

趣旨から同年四月より大衆的な労働雑誌「人と人」が刊行された。本誌の読者は六大都市を初めとして北九州に於ける鑛山所在地及び長野、群馬等の如き機業地方並に阪神、中国其他大工場所在地に及び、農村地方に土漸次普及するに至り、その毎月発行部数は一萬五千部前後に上るに至つた。然し、斯う啓蒙雑誌として發展した本誌は昭和三年三月には、遺憾乍ら事業整理の必要上八年の歴史を残して廢刊の餘儀なきに至つた。斯かる大衆的な労働雑誌の外に、漸やく社會政策に關する知識を渴望する者多きを加へつゝ、ある狀況に應ずるため、翌大正十一年九月には「社會政策講義録」を發刊した。その第一回購讀者は四千名の多きに達し、社會政策講習所及び社會政策短期講習會と並んで、社會政策の普及發達を促すに

興つて大いに力があつた。今之の講義科目を擧ぐれば次の如くであつた。即ち、經濟總論、近世産業史、社會學大意、近代思想、社會政策總論、労働立法、失業問題、労働保險、労働組合及び労働争議、労働委員會制度、利潤分配、工場衛生、産業福利施設、工場管理法、産業能率、社會事業概説、救貧防貧問題、社會教化事業、児童保護、農村問題、産業組合、文化政策等であつた。更に社會政策思想の普及により諸方面よりの要望に應じて、種々の講習會及び講演會が試みられたが、大正十三年には産業福利施設講習會、大正十四年には農村社會政策講座、工場鑛山現業員講座及び成人労働者教育普及講座、更に昭和三年には成人労働教育講座、昭和四年には職長講習會等が各地に開催され、年を経るに従つて内